



「2015年春季 JNN 社長会」で 石原社長が基調報告

3月19日(木)、ホテルオークラ東京において「2015年春季 JNN 社長会」が開催され、石原社長が基調報告を行いました。概要は以下の通りです。

4月からTBSテレビの社長を武田取締役役に引き継いでもらうことにした。ホールディングスの社長は引き続き私が担当する。グループの中核であるテレビは、昨年来、バラエティが安定した数字をとるようになり、上位を目指せる体制が整ってきた。ここで武田新社長にバトンタッチして、視聴率の向上とシェア拡大を図ってもらえると期待している。

視聴率状況は、下期は日本テレビ以外の各局が数字を落としているが、バラエティで徐々に堅調な数字が出るようになった影響もあって、P帯はわずかだがプラスに転じている。『ひるおび』『ニュースキャスター』などの情報番組、金曜日のバラエティ、そして『サンデーモーニング』を中心とする日曜の午前から昼に向けた時間帯は相変わらず好調を維持している。系列では、GP帯で3位、2位と上がってきている局が何局かあると聞いている。一日も早く、上位争いに加われるよう、武田新社長を中心に頑張っていくので、ご支援をよろしく願います。

民放連は2015年度のテレビ営業収入は1.3%の増加と予測しているが、この1月から3月のスポットが落ち込んでおり、楽観視はできない。一方で、昨年インターネットの広告費は初めて1兆円を超えたそうだ。タイムシフト、デバイスシフトなどの視聴習慣の変化などテレビをめぐる環境の変化は厳しさを増している。こうした状況を受けて、かねてより検討してきた「在京5社広告付無料配信」について、この10月から5社共同でトライアルを実施することが決まった。5社共通のポータルを作り、簡単に5社の番組にアクセスできるようにする。テレビとは違ったユーザー層の獲得や、違法動画配信対策など、様々な可能性が期待されている。動画配信の分野では、アメリカの「Netflix」がこの秋の日本進出を発表し、NHKも改正放送法により、4月以降ネット同時再送信などの実施を予定している。民放連でもメディア価値向上に向けた検討が進められているが、JNN全体としてどのように取り組むべきか、今後皆さんと一緒に検討していきたい。

4K関連については、一昨日、総務省「4K8Kロードマップに関するフォローアップ会合」が再開された。実用放送の伝送路、チャンネル数など第2次案を策定していくと聞いている。2020年の東京五輪を控え、4K化の流れはますます加速するものと思われる。4Kコンテンツ制作の推進や、BSでの2016年試験放送への対応など、積極的に取り組んでいきたい。